

Scouting Ibaraki

2008.4～2009.3 Vol.33



日本ボーイスカウト茨城県連盟
<http://www.scout-ib.net>

● 県連ホームページ「オープニング・フォト」より

ボーイスカウトとユニフォーム (制服)

一目でボーイスカウトとわかるユニフォーム、どうしてスカウトはユニフォームを着るのでしょうか。それは、次の意味があるからです。

- スカウトであるというあかし。
 - 世界中のスカウトが、同じ「ちかい」をたて「おきて」を守る兄弟として、仲間意識を体感するため。
 - 野外を主とした活動で、活発に活動できるようにするため。
 - ユニフォームを清潔に正しく着用すること、すなわち記章や標章を正しい位置につけ、身だしなみのよさや自尊心を養うこと。
 - 社会のスカウト運動に対する信頼を高めるため。
- です。また、スカウトのユニフォームは、どこの国であっても世界スカウト

記章をつけます。これは、「ちかい」をたて、スカウト一人ひとりが世界のスカウト仲間に加わったこと、スカウトとしてお互いに「ちかい」と「おきて」を守って友情を深めることを示しています。そうです uniform、「uni」=ひとつの「form」=形・姿勢なのです。自分が一員である地域社会、支えてくれている人々、自分の果たすべき役割、自分が常に努力して社会の役に立つ準備を着々と進めていること、積極的に建設的に役割を果たそうとするスカウトの精神がそこに表れています。

スカウトや指導者がスマートにユニフォームを着こなし、快活に活動する姿や秩序ある行動や動作により、一般の人々からスカウト運動に信頼と好感が持たれるように、「友情」「自信」「信

頼」の象徴となるユニフォームに大いに誇りを持ち、正しく着用するようにしましょう。

なお、「ユニフォームを来ているときだけがスカウトではない」と言われるように、ユニフォームを着ているときと同じ気持ちが自然に身に付き、スカウトらしい行動をいつもとれるようになることを期待しています。



● VR2009 総合優勝「メタボーイズ」

茨城県連トピックス

● 全国大会で組織拡充顕彰

平成 20 年の全国大会は 5 月に神戸で開催され、茨城県連盟は、平成 19 年度の加盟員が前年度比 100% を超えたことにより、組織拡充顕彰を受けました。また全国年次表彰が行われ、日本連盟功労章である「かっこう章」を、

宮田俊晴（県副コミッショナー）、竹内由比子（2 地区アダルトリソース委



韓国スカウトがホームステイ 平成 20 年度日韓スカウト交歓計画

● テーマは「良き理解・明るい世界」 2009.1.9 ~ 19

今年も平成 21 年 1 月 9 日から 19 日までの 11 日間、日韓スカウト交歓計画が行われました。これは、国際理解教育を推進するため、外務省から委託されてボーイスカウト日本連盟が行っている事業で、韓国から 132 人のスカウトと 21 人の指導者が来日しました。

この計画では、スカウトフォーラム

を中心とした交流事業を通じて、韓国スカウトに日本に親しんでもらい、併せてフォーラムに参加したり、ホームステイをしたりと、参加したスカウトやホストファミリーも含め、異文化との交流の機会をたくさん得ることができました。

フォーラムは、成田のマロウドホテルで開催され、茨城からはスカウト 20

名・指導者 6 名が参加し、東アジアの異文化を体験するとともに、保健衛生・環境保全・国際理解・国際協力への一層の理解を深めました。

続いて 2 泊 3 日のホームステイがあり、茨城では 27 の家族に 66 名の韓国スカウトを受け入れていただきました。ホームステイならではの素晴らしい国際交流がなされたことでしょう。ホストファミリーの皆さん、ありがとうございました。



【ホストファミリーの声】

○本当に短い 3 日間でした。最初は「えっ！ホームステイ!？」言葉・習慣等の違いで大変不安でしたが、それ以上に充実した時を過ごしました。

○とても礼儀正しい青年たちで、気持ちよく受け入れることができました。さすがスカウトです。

○ディズニーランドよりも日本文化が学べるような体験を求める韓国のスカウトに驚き、そして感心しました。



●「ベンチャーラリー 2009」開催 2009.3 阿見町にて

ベンチャースカウトが一丸となって取り組むことができる県レベルでのプログラムの復活を！の声に応えて、今年 IVY(Ibaraki Venture & Youth Scout) リーグを立ち上げ、その最初のイベントである「ベンチャーラリー 2009」を3月に阿見町において開催しました。

4人編成のチームが県内から10チーム参加しました。

ベンチャーラリーとは、市街地から林道・荒地地までの様々なコースを、より早く駆け抜ける体力と読図能力が問われるハードなスペシャルステージ、決められた時間通りに歩くベーシックステージ、所定の時間内に課題をこな

すプログラムステージの3つのステージからなり、チームメンバーのそれぞれの技能を發揮し協力し合うことで、仲間との友情と信頼を感じ、互いの心をひとつにしてコース走破する・・・ベンチャー年代ならではの競技です。

参加した各チームは、この醍醐味はこの普段の活動では味わうことのできない大なるチャレンジを体験したことでしょう。



●結果

【ベンチャー部門】

- 1位：チーム・シリウス（取手2）、2位：チーム・つばめ（桜川1&笠間1）
3位：チーム・racer2（土浦2）、4位：桃太郎（つくば1&つくば2）、
5位：チーム・ダッシュmn'（つくば1）、6位：チーム・龍ヶ崎1団ベンチャー隊

【ローパー・指導者部門】

- 1位：チーム・メタボーイズ（土浦2&石岡3）

【リタイア】

- チーム・ヒルヒガー（水海道1）
チーム・八咫鳥（阿見1）
チーム・龍ヶ崎1団カブ隊リーダー



●ベンチャーラリー参加者&スタッフ

●参加者の感想

記念すべき第1回大会で総合優勝することができ、大変うれしく思います。初めてメンバー全員が揃ったのが、大会当日ということもあり、多少の不安もありましたが、メンバーとの付き合いは長く、チームワークは抜群ですし、前日までに個々人で準備できることはしっかりとやってきていたので自信もありました。「メタボーイズ」というチーム名は、皆さんにお笑いチームと馬鹿にされていましたが、リタイアした時に、こいつらならしょうがないかと許してもらえると甘い考えは全くなく、相手を油断させる作戦であります。

身重からく体の異変のため何度もリタイアを考えましたが、ベンチャー達には先輩として絶対に負けたくないという気持ち、読図・計算・歩測・ゴミ拾い??と分担したチームの役割をみんながしっかりとこなしたことが勝ちにつながったと思います。そして、僕たちのモットーである「明るく、元気に、楽しく、締めるところはしっかりと」を実践して、勝てたことが何よりもうれしいです。次回も必ず参加し、是非とも2連覇を狙いたいです！！

最後に、今まで長い期間をかけて、企画・準備・運営されてきたスタッフの皆様、大変お疲れ様でした。私たちが予想していた以上のすごさと完成度で、ラリーに参加しながら、びっくりするとともに、さすがだなと思いました。真剣だからこそ厳しいですが、達成感と感動は他の比ではありません。ありがとうございました。でも・・・次回は距離をちょっぴり短くしてください(笑)。



●連盟長杯はチーム・シリウス



●理事長杯 & 総合優勝はチーム・メタボーイズ



No.1 シリウス (ベンチャー1位)

●ゼッケン「1番」、緊張のスタート



No.7 ヒルヒカー (R)

●1人欠場。そのハンデを乗り越え・・・



No.10 竜ヶ崎1回カブ隊 (R)

●唯一の指導者チーム



No.3 竜ヶ崎1回ベンチャー (ベンチャー6位)

●スタートすると、また別の緊張が・・・



No.9 つぼめ (ベンチャー2位)

●失敗したっ!! ミスコースだ!!



No.2 ダッシュ、Men (ベンチャー5位)

●スペシャルステージ走破中! なぜ歩き?



No.5 桃太郎 (ベンチャー4位)

●ここはチェックポイント



No.8 やたからず (R)

●20キロを踏破し、ゴール!!



No.4 racer2 (ベンチャー3位)

●うれしいんだけど、悔しい!!

茨城スカウティング便り



● 第3地区カブ・ビーバーラリー

6月8日(日)。下妻市を会場に第3地区のカブ・ビーバーラリーが開催されました。



● WB研修所

5月2～5日、土浦市青少年の家にてWB研修所カブ課程茨城37期とボーイ課程茨城33期が開催されました。



● 指導者のつどい

2月28日の指導者の集いは「海外派遣はたのしい」のテーマでスカウトの成長への関わりを研修しました。



● 第2地区キャンポリー

8月〇～〇日に、開拓を進めてきた県連野営場のプレオープン兼ねて第2地区キャンポリーが開催されました。



● ボーイスカウト講習会

今年度から、指導者の訓練体系が変わり「指導者講習会」に代わって「ボーイスカウト講習会」がになりました。



● 20年度バングラデシュ派遣

今回の派遣は、土浦第8団の大澤晃司さんと、つくば第1団の篠原健吾さんの2人が参加しました。

第12回韓国ジャンボリーに参加 (大韓民国 江原道 雪岳山)

平成20年8月6日～8月11日に、茨城のスカウト8名・指導者3名・団員1名の計12名が大韓民国 江原道 雪岳山で開催された「第12回韓国ジャンボリー大会」に参加しました。

このような国際派遣は指導者・スカウトにとって1つの大きなきっかけになると思います。

●参加指導者より

ジャンボリー会場においてスカウトとのコミュニケーション不足を感じましたので、自分から積極的に「一緒に…」という声掛けを行うことによって、スカウトの緊張感を取り除いた結果、隊・班としての結束力が見えたように感じました（この「一緒に」の部分のいかに班長に気付いてもらえるかが今後の課題です）。

また、言葉も通じなく、通訳もいないからなのか？ なかなか交流を行おうとしないスカウトの前で、自らが韓国指導者・韓国スカウトと、挨拶などのコミュニケーションをとる姿勢を見せたことで、そこからスカウト同士の交流もスムーズに展開し始めました。このことによってスカウトたちは挨拶が何処へ行ってもコミュニケーションをとるための大事な方法であることに気付いたようです。今後ぜひ続けていこうと思います。

●参加スカウトより

派遣に参加する前は、学校での英語の勉強の重要性を理解出来ていません



でした。今回の派遣を通して、自分が話した言葉が相手に通じ、相手が話した言葉を自分が理解でき、そして会話になったことが嬉しかったです。今後は学校の英語の勉強が自分の実になるように勉強方法を見つけてすすめていきたいです。そして、このチャレンジの次には韓国語の勉強も始めたいと思います。何故なら将来、色々な言葉が話せる大人になりたいからです。

あと、夏の野営で1週間という期間に体力の限界を感じました。次回の大きな大会に向けて、長期野営でも安定した体力づくりをしたいと思います。



第17回全国フォーラム (長崎県)

スカウト運動の原点である「スカウトたちの声に耳を傾け、その意見をスカウト運動に反映させていくこと」を実践するため、全国フォーラムが1974年から開催されています。

県内7つの地区で開催された地区のベンチャーフォーラムの代表が県ベンチャーフォーラムに集い、その代表が県連盟の代表として派遣されます。今年は土浦第2団の郡司晃士くんがその大役を務めるとともに、議長団としても活躍しました。

このフォーラムは、スカウトの個々が自己の成長をはかり、幅広い社会性を身につけ、相互の理解を深めるための貴重な機会が提供されます。また、

フォーラムでの討議が参加者だけでなく全国のスカウティングの現場に広く共有されるよう、全国のスカウトの気運を高め、各県へとフィードバックできることがその目的となっています。

●採択文 (抜粋)

Global Warming (地球温暖化)

我々スカウトは地球温暖化をくい止め、環境をより良くするため、エコココ(エコ心)の輪を広げます。

Community Service on Disaster (災害時の地域奉仕活動)

「そなえよつねに」の精神で、常に災害に備えて、知識を身につけ愛をもった協力をしていく。また、素早く、無駄のない支援をするためのネットワークを作



る。

Cross Culture Exchange(異文化交流)

相照らし、心でつなぐ環を創ろうーお互いに理解し合うため、国際姉妹団を結成しよう。

Leadership (リーダーシップ)

ちかいとおきての実践・実行のために、スカウトよ、ラシンパンの如く導く者となれ。

●平成 20 年度アジア太平洋提携プロジェクト（バングラデシュ）派遣



土浦第8団ローバー隊
大澤晃司

私は海外に行きたいと昨年の9月ごろから強く思うようになった。そこで、平成20年度アジア太平洋提携プロジェクト（バングラデシュ）派遣に参加した。参加した理由は、都合のいい時期であったため、観光では訪れることはまずない国であったためである。

この派遣の特徴はバングラデシュローバーとの提携プロジェクトという点である。バングラデシュ連盟と日本連盟の協定に基づき、日本ローバーが主体となりプロジェクトを企画、計画する。そして、現地でバングラデシュローバーとともにプロジェクトを実行する。帰国後、延べ5回の集会を経て各地で報告会を行い、報告書を提出する。それらを通して、結果を味わい、次年度派遣のクルーに対して改善点を指摘することでローバープロジェクトとして完成する（予定である）。

長々と概要を説明したが、ボーイスカウト活動の醍醐味は、未知との遭遇を通して自分が「変わる」ことだと考えている。私はこの派遣を経験し、「変わった」と思う。

1. 事業名

平成20年度アジア太平洋提携プロジェクト（バングラデシュ）派遣

2. 派遣期間

平成21年

2月23日(月)～3月10日(火)

3. 派遣先

バングラデシュ人民共和国、首都ダッ



カ及びチッタゴン管区コックスバザール県モヘシカリ島、他

4. 派遣の目的

日本およびバングラデシュ両国連盟のローバースカウトによる健康面での生活改善（PCHおよびHealth）、生活環境の改善（Environment）および乳幼児・青少年・母親の食育（Nutrition）をバングラデシュの住民に啓蒙し、合わせて現地スカウトが日本ローバー帰国後も継続して啓蒙活動が出来るよう啓蒙メッセージを移植すること。

5. 派遣団派遣員

派遣団長1名、アドバイザー1名、ローバースカウト12名の計14名。

6. プロジェクトエリアとグループ

今回のプロジェクトは次のエリアで実施された。コックスバザール県モヘシカリ島ウボジラ郡に所属するカミタルパラ村、コンドゥカルパラ村、ドイラルパラ村およびゴティバング村の4村600家族を対象とした。対象家族は事前に選択され、家族番号が各家庭の玄関軒下に記載されていた。

日本ローバー12名に対して、ダッカローバー12名、現地スカウトリーダー12名が中心となり、それに現地の保健指導員12名と現地ローバーとスカウトが各グループに4～5名ずつ加わり、12グループに分かれ、行動単位となった。コンドゥカルパラ村、カミタルパラ村はそれぞれ2グループ、ドイラルパラ村、ゴティバング村はそれぞれ4グループの編成であった。

7. プログラムの概要

大きく分けて次の3分野を行った。

- ①訪問式聴き取り調査
- ②家庭訪問型啓蒙活動
- ③招待型啓蒙活動

8. 宿营地

プロジェクト地の農村に近いマー



ケットの一角にある要人宿舎の2階の4部屋を拝借した。外面非常にしっかりとした施設ではあったが、不定期な停電が続き、一日の内数時間しか電気が使えず、それに合わせて水の供給も不規則であった。トイレもまともに流せず衛生状況はあまり良くなく、そのためもあってか、体調不良者が続出した。皆で知恵を出し、水の出ている間に空ペットボトルに水を蓄え、トイレ、手洗いやちょっとしたシャワーとして利用し、不自由な環境をのりきった。

9. 派遣を終えて

率直な感想としては考えさせられることが多々あった。ここでは2点ほど反省点を挙げたい。まず一つ目は、クルー間で互いに叱咤することが少なかったことである。このクルーは派遣のための寄せ集めクルーであるから、お互いをよく理解していない。事前集会のうちに、クルー間の協調性など顧みず、深い激論を繰り広げるなどして、お互いの主張をさらけ出し、いがみ合っておくべきであった。私はこの派遣を通して、他のクルーとの間で温度差を感じるが多々あり、心を鬼にして叱るべきであったし、叱られるべきであった。

二つ目にコミュニケーションのとり方を工夫すべきであった。どのようにして、バングラデシュ人の心の壁を打ち破るかが肝心である。言語能力に長けていなくても、それ以外（歌、楽器など）のツールをもっていれば彼らと打ち解けることが十分可能である。あるクルーはジャグリングなどのパフォーマンスができるなど、言語以外にコミュニケーションがとれるツールをもっていた。よって、コミュニケーションのとり方を工夫することで、よりスムーズに関係を築けたと思う。